

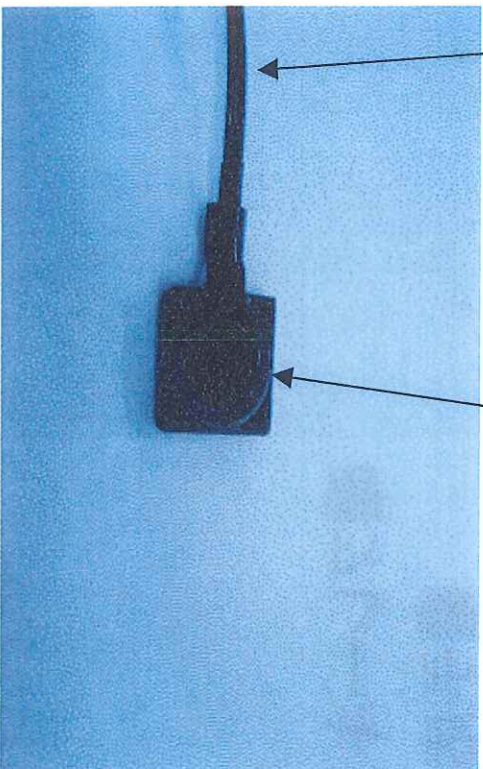
充填検知システム用振動デバイスの 取付け注意事項

曙ブレーキ工業株式会社
電子応用技術部

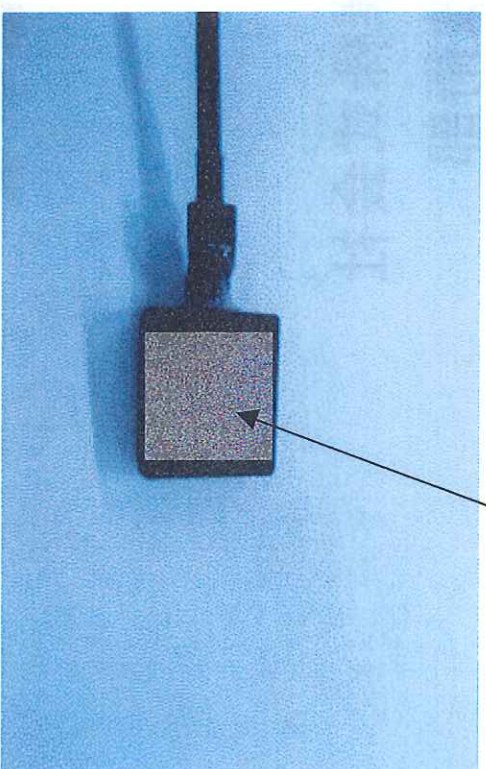
1. 振動デバイスの取り付け面(表・裏の見分け方)

艶のある黒色塗装
(中央が丸型)

ケーブル



両面テープ

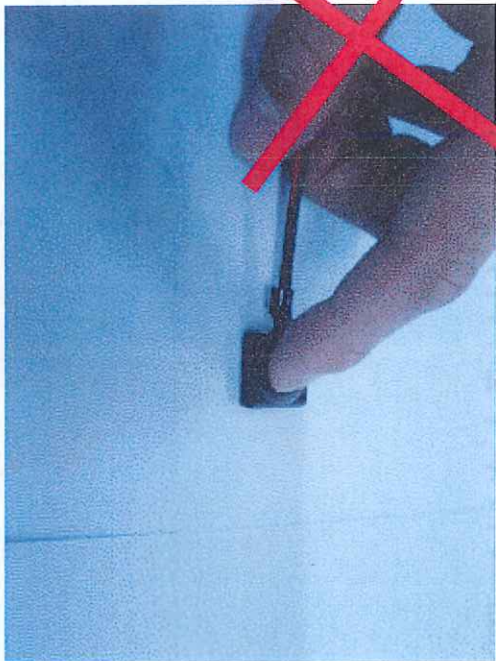


表側(検知面)

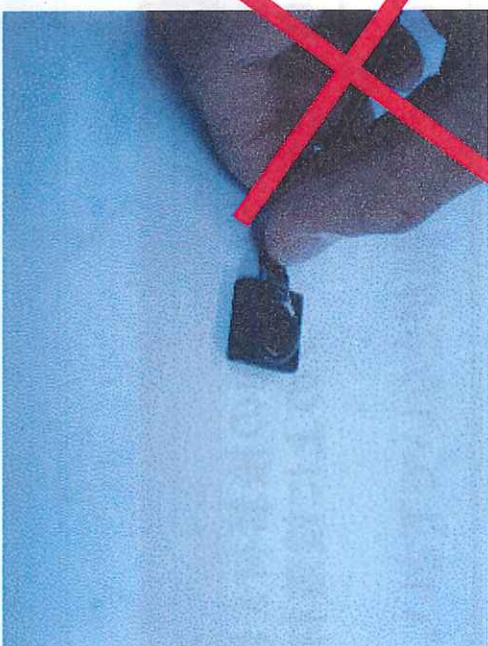
裏側(貼り付け面)

2. 振動デバイス取り付け時の注意

振動デバイスを取り付けるときは下記の様な部分を
押さないでください



中央部の検知面を
押さないでください

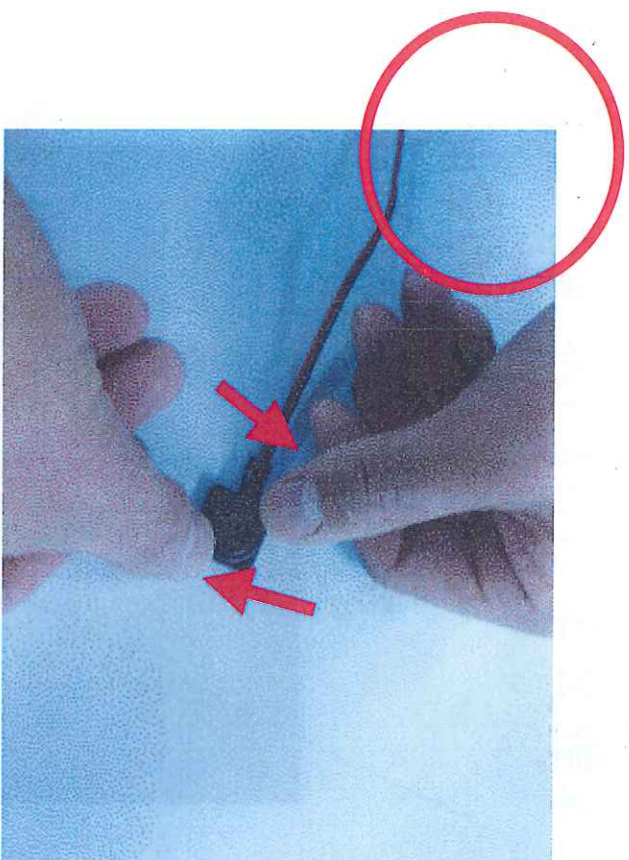


ケーブルカシメ部を
押さないでください

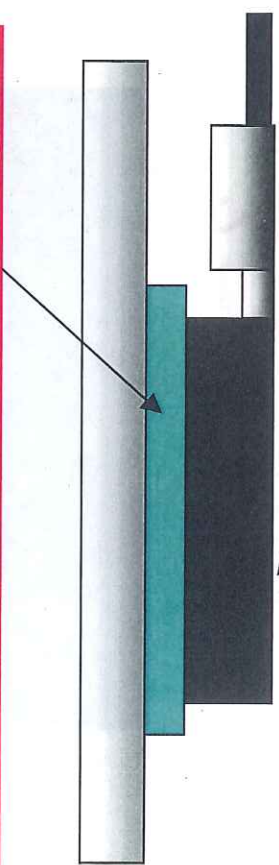
× 塗装を剥がしたり、キズ等を付けないようにしてください。
× 取付けに工具類を使わないでください。

(検知面に水中ボンド等の異物などが付着した場合正しく出力しない可能性が
ございます)

3. 振動デバイス取り付け方法



振動デバイス(検知面)



必ず付属の両面テープで貼り付けて下さい
接着力が足りなくて他の接着材を使用する場合は両面テープの上に接着材を足して下さい。

両面テープは剥がさないで下さい。

振動デバイスを貼り付けるときは四隅を持つて押しつけてください。

振動デバイスを貼り付ける面はなるべく平らな面にしてください

押しつける際に振動デバイスに曲げ応力がかからないようにしてください。

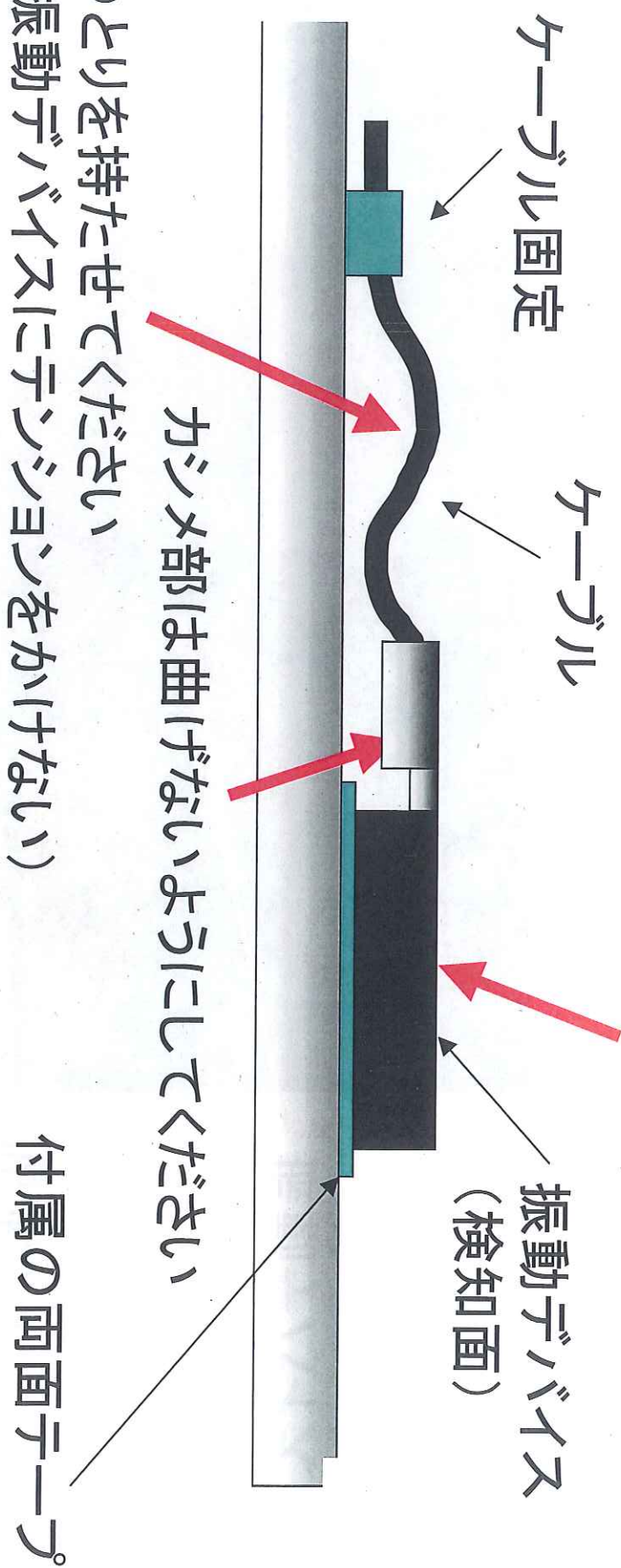
注) 平面への取り付けは必ず付属の両面テープを使用して下さい。

注) 取り付け相手面を予め洗浄して下さい。

注) 海中で両面テープは接着できません。

4. ケーブルの固定について

検知面／ケーブルにキズ等が
付かないようにしてください。



ゆとりを持たせてください
(振動デバイスにテンションをかけない)

付属の両面テープ

✕ ケーブルを引つ張らないでください。

✕ 打設中は工具類が当たらないようにしてください。

注) バイブレータ等が振動デバイス／ケーブルに接触すると振動デバイスが破損する
場合がございいます

注) ケーブルを金属線で強く締め付けた場合破損する場合がございます



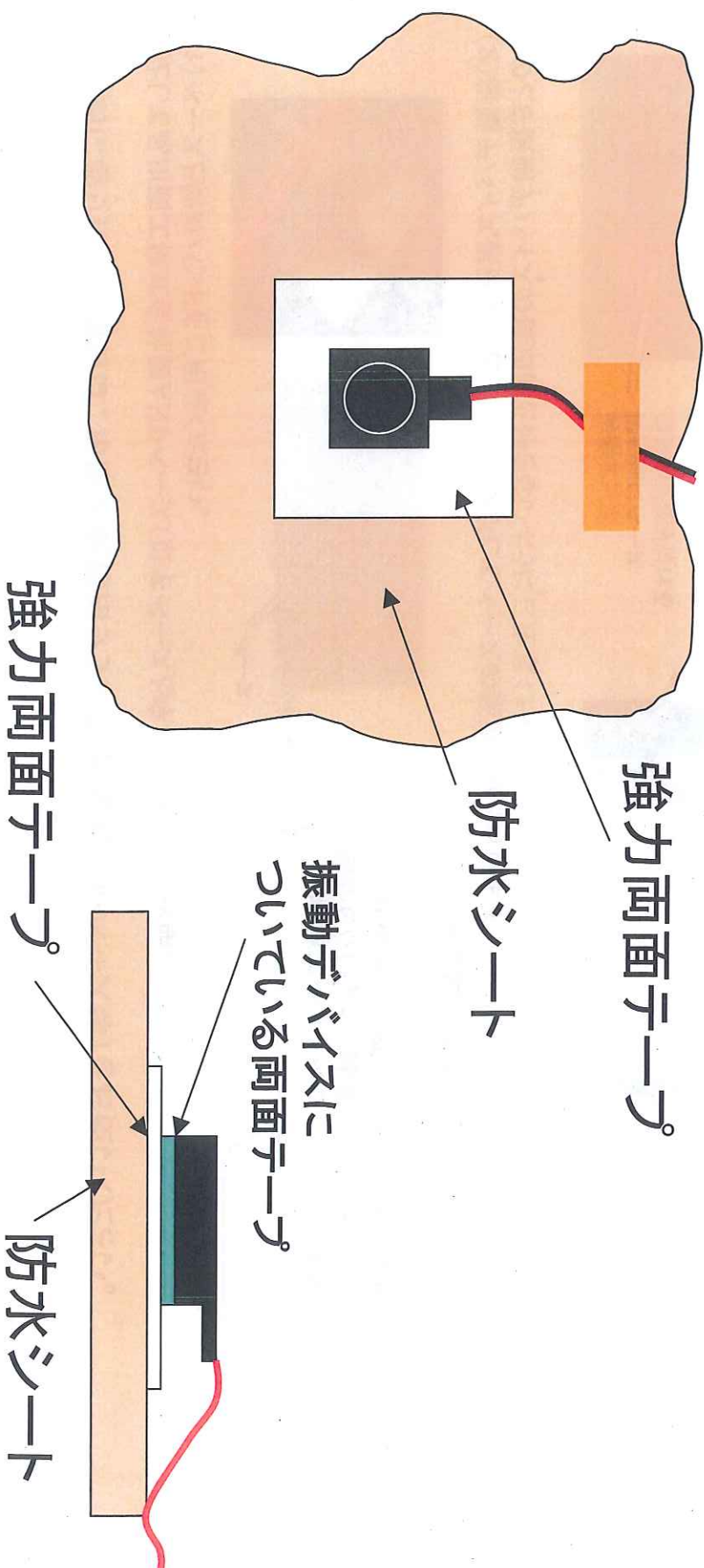
ケージル、養生

防水シート

振動デバイス

防水シートにうまく貼りつかない場合

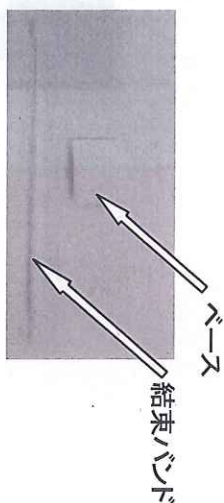
カーペット固定用の強力両面テープで下地を作り
その上へ振動デバイスを貼りつけてください。



5. 鉄筋への取り付け

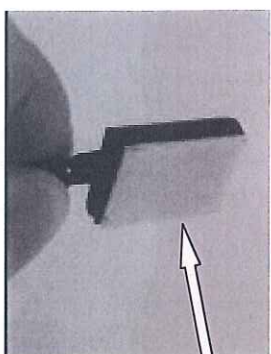
鉄筋に取り付ける場合は、市販の配線用クランプ(商品名ANPベース等)をお使いください。

例として品川商工株式会社製ANPベース(以下ベースと呼ぶ)を用いてご説明いたします。
(1)ベースと結束バンドをご用意ください。



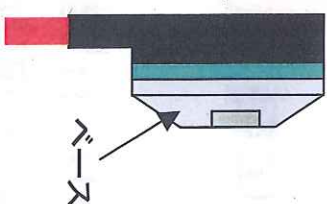
注意 ・ 振動デバイスのケーブルは、振動デバイスにテンションが掛からないように結束バンドやテープで固定してください。 ・ 針金等での固定はケーブルが損傷し、短絡により測定できなくなる可能性がありますのでおやめください。

(2) 振動デバイス裏面の両面テープを剥がしてベースの裏面に貼り付けます。
このとき振動デバイスの検知面を押さないようにご注意ください。

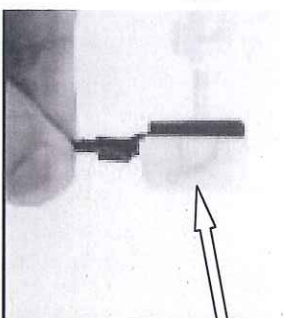


両面テープ
接着面にベース
の裏面を貼り付ける

振動デバイス

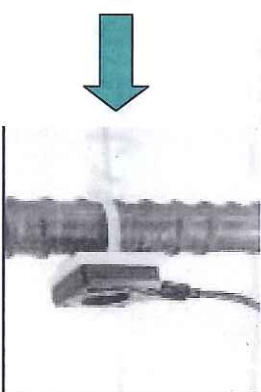


ベース



結束バンド取付穴

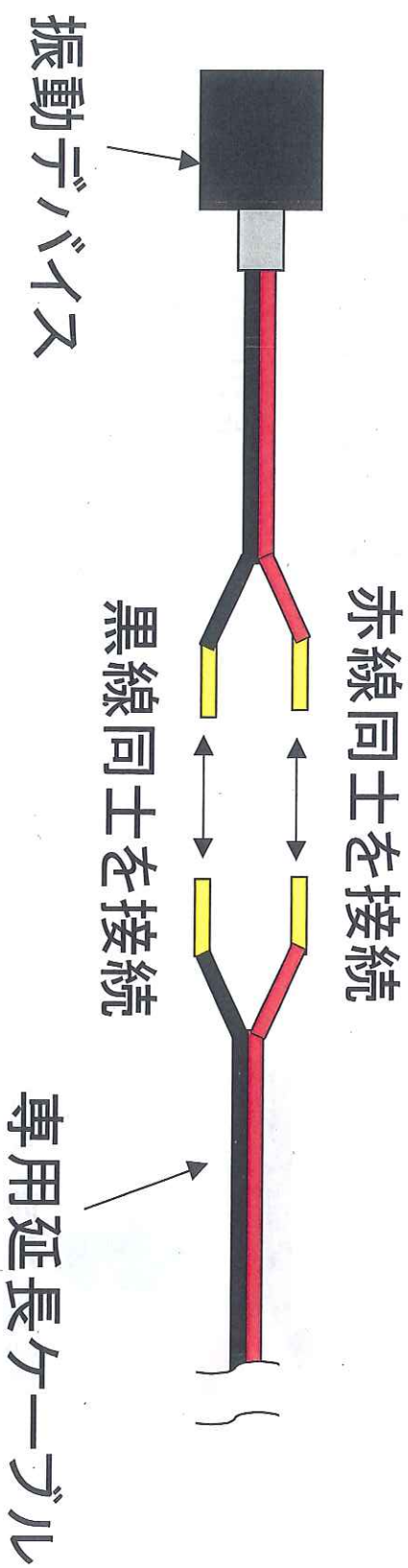
(3) ベースに結束バンドを通し、鉄筋にしばります。



ベースはホームセンターの電設材コーナーや電気工事用資材の販売会社などで入手できます。

6. 専用延長ケーブルの取り扱いについて

5-1. 接続方法①



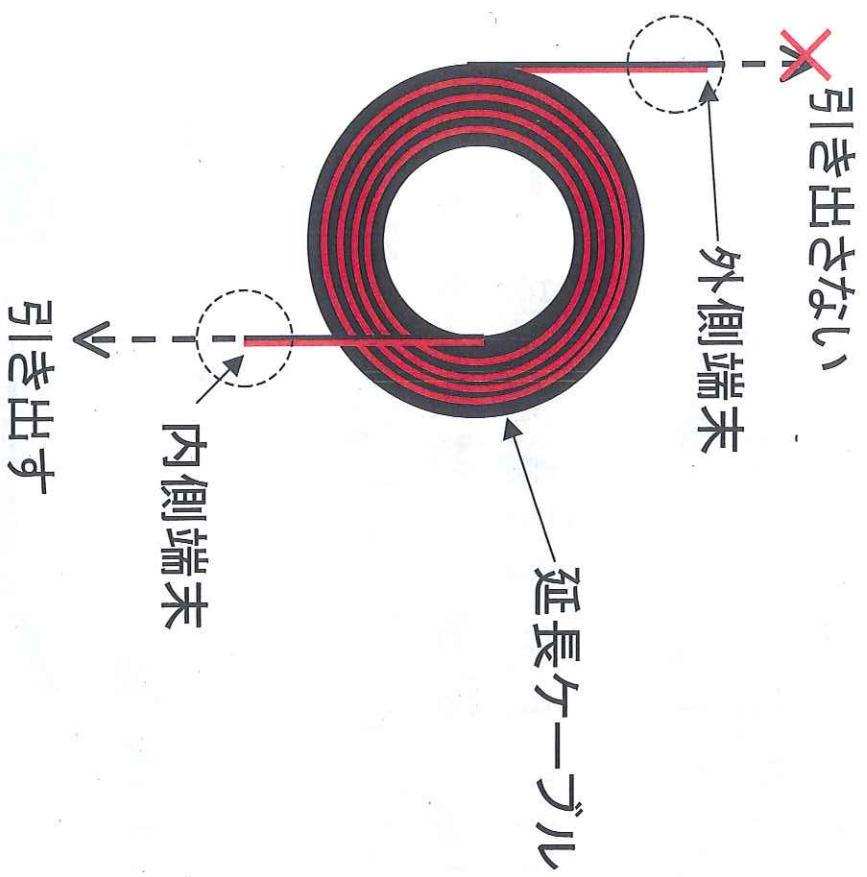
延長ケーブルを接続する時は上図のように

‘赤線ー赤線’、‘黒線ー黒線’で一致させ、ケーブルの
導体部(被覆を剥がす)同士を指で振ってまとめて下さい。

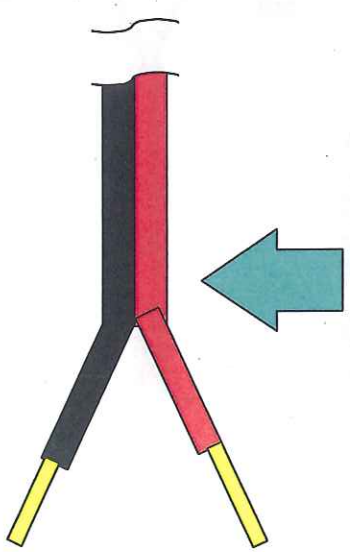
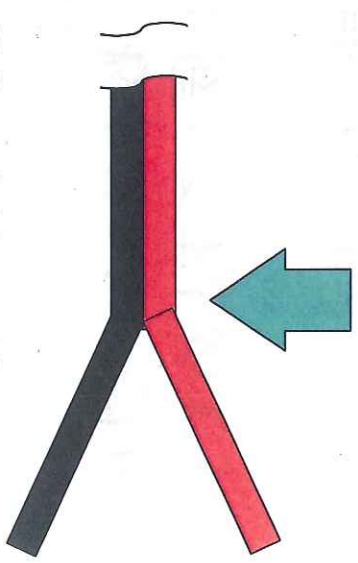
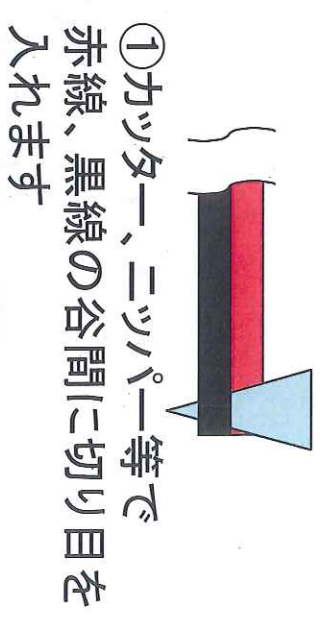
注) ‘赤ー黒’で接続すると出力不能となります

注) 接続部は気中に固定してください

注) ケーブルの延長は50m以内としてください



注) 延長ケーブルを引き出す
 時は絡まりを防ぐ為、内側の
 端末を引っ張って引き出して
 ください



接続の様子②

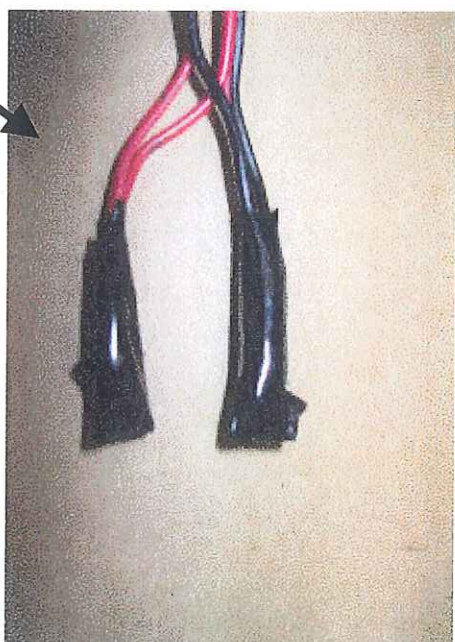


①延長ケーブルの末端
の被覆を剥く(1cm程度)



②指でそれぞれの導体部を
十分振ってまとめる

注) 接続部が外れると出力不能になります



接続部は気中に置くこと

③ビニルテープなどで
絶縁処理する

注) 赤線と黒線の導体部が
接触しないようにする

注) 接続部がコンタクト
や水に浸かると
作動しません